

図書名：『悩み部』の結成とその結末。」 著者：麻希 一樹

出版社：株式会社 学研教育出版

住所：広島県三次市立君田町東入君 10361 番地 2 TEL(0824)53-2008

三次市立君田中学校 第3学年 氏名 加藤 侑里

私がこの本を初めて見かけた時、おもしろい題名だなと思いました。読んでみようと思ったのがきっかけは、『悩み部』とは何だろう」「結末は何が起こるのだろうか」でした。

ある学校にある不思議な部活動、『悩み解決部』の部員である隆也が人の悩みを思いもよらない、意外な方法で解決していくという話でした。それが、本当に驚く結末で、「なんて隆也は頭がいいんだ！」「私も隆也の様に意外な結末で、色々な人の悩みを解決したいな」と思いました。

私はこの本を読んでいて、疑問に思ったことがあります。それは題名にある「悩み部」の結末がこの本には書いていないことです。著者はわざと結末を書かないことで読者に「悩み部の今後はどうなったのか」興味を持たせようとしたのではないかと私は考えました。

私がこの本を読んでいて、別の面で深く考えたことがあります。それは、この本の登場人物である『悩み解決部』のエリカについてです。私の一番好きな登場人物が彼女です。彼女が「世の中の人々は皆、タダと割引が大好きでしょ。なのにどうして、タダで悩みを解決してもらえるのに、『悩み部』にだれも訪ねてこないの？」と嫌味を言うてしまうのです。そんな彼女の性格に疑問を抱いているようですが、私はそうは思いません。人との距離感をつかむのは苦手だけど、思ったことをはっきり言い、何事も前向きである彼女に私は、自分に近いものを感じ、憧れも少し抱いています。この本が私の心を射抜いたところはそこです。私もエリカのように、物事を前向きに考え、挑戦する気持ちを持った人間になりたいなと強く感じました。